

報道関係者各位



2014

2014年9月20日
東京サイクリングサミット実行委員会

第1回東京サイクリングサミット2014開催報告

東京サイクリングサミット実行委員会では、2014年9月20日に「第1回東京サイクリングサミット」を開催しました。

200名近い来場者の方にお越しいただき、国内外から6名のゲストスピーカー・パネリストの方々と非常に有意義な議論の場を持つことができました。

下記に概要をまとめておりますので、ご査収いただき、次年度以降のサミットへのご取材ご検討いただけると存じます。

下に概要をまとめておりますので、ご査収いただき、次年度以降のサミットへのご取材ご検討いただけると存じます。

だければと存じます。



<ニューヨークからのゲストスピーカー>

左から、ジョナサン・オルコット（ニューヨーク市 交通局前政策責任者） /

ケネス・ポジバ（バイクニューヨーク会長） / スザンヌ・ウインチ（『velojoy.com』を設立）



<日本のゲストスピーカー>

左から、横溝良一（東京都技監・建設局長） / 山崎一（一般社団法人自転車協会 副理事長） /

増田寛也（東京大学公共政策大学院 客員教授）

<講演の様子>（右）JCAとの友好を指し示すポジバ氏



【谷垣禎一実行委員長による、サミット総括 全文】

本日は長い間お付き合い頂きまして、ありがとうございます。
講演会やパネルディスカッション等で非常に貴重な意見を聞けたと思います。
私自身も各意見等を参考にさせて頂き、
改めてサイクリングサミット実行委員長として、議論を総括して今後の指針をまとめたいと思います。
まず、サイクリングサミットに参加された、ここにお集まりの方々の共通のビジョンとして、自転車の「**公益性・公共性**」を追求していきたいと思います。

この公益性等とは、今、低炭素社会が叫ばれていますが、我々は持続可能な社会を作るため、都市交通の改革を進める必要があります。自転車はその主役となる。言い方を換えれば、「**自転車は、都市の課題、都市交通の課題を解決する**」のではないかと思います。自転車利用の意義を再認識し、世界の先進都市に負けない、新たな普及ステージを作っていきたいと考えます。

しかしながら、自転車が都市交通改革の主役となるためには、現状の課題である「**安全のための抜本改革**」を推進することと、新たな役割を獲得する「**都市交通としてのインフラ化**」の、両方の課題を推進していくことが大切だと考えます。

「**安全のための抜本改革**」とは、自転車だけでなく、歩行者、自動車のドライバーという道路を利用する全ての人々の安全確保を行うことです。自転車の観点から言えば、通行帯区分や法規の見直し、マナーの啓発活動等です。

「**Road to 2020**」という言葉がありますが、自転車愛好家だけでなく、一般の自転車利用者まで問題意識を共有して頂くことが必要となるため、学校単位での教育やマナーの啓発活動が非常に重要かと思えます。更に BAA マークや SBAA マークに代表される自転車自体の品質の保持やメンテナンスの重要性も、より多くのユーザの方々に認識して頂くことも必要です。

また、「**都市交通としてのインフラ化**」とは、自転車レーンの敷設を推し進める。そして途切れることが無いようにネットワーク網を構築していく。その点を踏まえ、シェアバイクシステムの導入を行う。また、休日や平日昼間にサイクルトレインを導入して、自転車利用の拡大を図るのも考えられてしかるべきだと思います。

安全性を追求した利用・活用、その二つの策を推進する中で、「**交通ルール／マナー**」、「**シェアシステム**」、「**標識等の交通シンボル**」の3つを**国際標準化**することも目指していきたい。そのためには、変えるべき現状は変えなければなりません。

戦略としては、

2020年のオリンピック開催に向け、都市インフラ、都市交通の再構築を進める**東京で新たな“日本モデル”**をつくっていきたいと考えます。本日は、ニューヨークの例を学びましたが、世界の“自転車先進都市”から多くを学び、日本の現状に即した独自モデルをつくり、自転車文化の創造をしてきたい。具体案としては、たとえば、これからオリンピックなどで整備が始まるお台場等で、自転車特区のようなものをつくり、自転車レーンやシェアサイクリング等々を運用して、「**自転車新交通システム特区**」という日本モデルを作ってテストすることを提案したい。

その効果が検証できれば、各都市にもサイズを合わせて導入が可能と考えます。東京などの大都市モデルづくりから、コンパクトシティ化を見据えた地方都市でのモデル展開へと運動を広げていくことは可能と思います。

そのためには、先ほども話が出ました通りに、市民と自治体、警察および企業とが一体となって、**公民協働**を具体的に動かしていかないとなりません。

諸外国や団体の違う関係者が、協働や情報交換をしやすい「**サイクリングサミット**」という手法を**活用**して、「**公民協働**」を推進していきたいと思います。

それではどのように進めていくのか、それは、本日、ここに参加してくださった皆さんをはじめとして、各省庁や警察・市民団体等と協議会をつくり、サイクリングサミットやコミッティの分科会等を定期的に開催して、世論を喚起しながら現実化していきたいと思います。今年は、「**Road to 2020**」として開催したサイクリングサミット元年です。そして皆さんはその立会人であり発起人ということになります。これからの都市交通を変えるのは、我々でもあり皆さんでもあります。公民協働をしながら、自転車の公益性・公共性を意識して、「**自転車は、都市の課題、都市交通の課題を解決する**」を実践してまいりましょう。

長時間のご清聴ありがとうございました。

< 実施概要 >

タイトル : 「東京サイクリングサミット2014」

主催 : 東京サイクリングサミット実行委員会

主管 : 公益財団法人日本サイクリング協会

会場 : イイノホール (東京・内幸町)

会期 : 2014 年9 月20 日 (土)

開催時間 : 午後1 時30 分~午後5 時 (基調講演、パネルディスカッション)

特別協賛 : (一社) 自転車協会

後援 : 東京都、米国大使館、(一財) 自転車産業振興協会、
(公財) 日本自転車競技連盟、(公社) 日本トライアスロン連合

協力 : 自転車関連企業・団体、自動車関連企業・団体等

登壇者一覧 :

谷垣禎一/公益財団法人日本サイクリング協会会長 自転車活用推進議員連盟会長

JONATHAN L. ORCUTT (ジョナサン・オルコット) / ニューヨーク市 交通局前政策責任者

KENNETH J. PODZIBA (ケネス・ポジバ) / バイクニューヨーク会長

SUSANNE G. WUNSCH (スザンヌ・ウインチ)

横溝良一/東京都技監・建設局長

山崎一/一般社団法人自転車協会 副理事長

増田寛也/東京大学公共政策大学院 客員教授 (スペシャルゲストパネラー)